



ドキドキの
ピアノ発表会!



夏!
第1回懇親会



各サークルの
華麗なパフォーマンス



初めての
学童実習



【リスタート】
校長室の窓から

日本総合教育専門学校

日総の魅力を
たっぷりお届け!



日総だより 101号

2023.9

松本星太

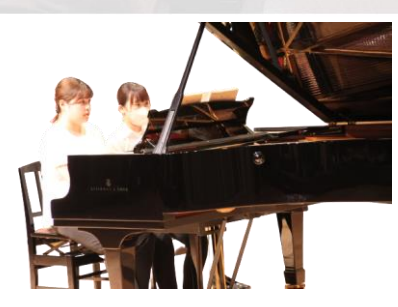
1 夏の懇親会開催！

流しそめんに始まり、サークルの出し物やスイカ割りなど、「夏」を感じる企画が盛り沢山の1日でした！
 このような企画計画実行を通して、将来先生になった際必要な「人の前に立つ力」や「伝える力」「企画力」などを本校の学生達は楽しみながら身につけていってるんだなーと再度実感しました。
 この日まで準備を頑張った役員のみなさん、本当にお疲れさまでした🌻🌻🌻
 学生たちにとって、心に残る1日になったかと思います。



2 ピアノ発表会開催！

前期ピアノ発表会を7月30日に開催しました！
 去年から玉名市民会館のマルチホールで開催しておりますが、普段とは違う緊張感のある雰囲気、学生たちもドキドキしていた様子。この日は何故だか私たち職員も緊張します(>_<)
 上手く弾けた学生、悔しい思いをした学生、発表が終わった後の感情は様々だったと思いますが、この緊張を乗り越えた！という事実が、成長の大きなおきな糧に必ずなります！！本当にお疲れさまでした。
 多くの保護者の皆様にもお越しいただきました！ありがとうございました！



3 保育・教育実習に向けて

8月28日からこども学科3年生、9月4日から幼児教育学科4年生の実習がスタート！
 こども学科は、外部の保育園や施設を選択、幼児教育学科は、外部の幼稚園か小学校を選択し実習に臨みます。
 幼児教育学科4年生はこれが最後の実習となります。今まで積み上げてきたことを存分に発揮してください。
 半年後には社会人生活がスタートする卒業学年。今回の実習でも、子どもたちと沢山関わり、先生方から1つでも多くのことを学んでください(#`´#)



100th Memorial Number

学校囲み記事と絵画集

日本総合教育専門学校新聞 NISSO だより

「校長室の窓から」2015.4~2023.8

校長室の窓から

リスタート

文責 高木

8月の終わり、この時期私は国民体育大会の出場権をかけた九州ブロック予選会に役員として参加する。つい先日も大分県で行われた成年男子サッカー対佐賀戦を応援視察した。熊本は来年に国体開催を控え選手強化が進む佐賀に残念ながら4対1で破れた。この一戦に限らずサッカーの得点は停止球からのオフenseスタートの得点率が高い。フリーキック、ペナルティキック、スローイン、コーナーキックなどからのリスタートが勝敗の鍵を握っているといってもいい。

今月号のNISSOだよりは101号でリスタートである。再開時の新たなエネルギーをもって職員と共に学校の取組、学生諸君の奮闘状況、教育関連の話題等について飾らない発信をしていきたい。

100号までのNISSOだよりは300部印刷製本した。読んで頂きたい方々には一部遠隔地には郵送したが、ほとんど持参し謹呈し、一様に喜んで頂いた。持参していく中で改めて300人近くの方々と今でもつながりがあることに改めて感謝している。

ひとつの区切りに一度リセットとの思いもあったが、元に戻す・やり直すということではなく、再起動・再始動、正しくリスタートである。上記のサッカーの例からもチャンスの機会と捉え、より充実した発信ができるようにするために、より充実した日々の教育活動に邁進したい。

14 「北斎と若冲」 2016.5 月
 北斎と若冲、いづれも日本が世界に誇る江戸時代の天才絵師である。僅れども二人の天才絵師の方に半歩でも踏み出してみようと思つてみた(下に掲載)。北斎の富嶽三十六景、若冲の群鳥園に向かうのは恐れ多く、北斎は最晩年の怒濤園、若冲は魚群園に挑戦。筆を入れるたびに食い入るように彼らの作品を観る。とてつもない才能に手上げ状態の私。
 しかし、半歩でも数ミリでも踏み出さないと限りなくゼロはゼロ。私は学生達にも望んでいる。自らの望む方向に、しっかりと踏み出し、夢を掴んでほしいと、夢はあきらめない限り夢の方から遠ざかることは無いのだから.....



15 「騙される勇気」 2016.6 月
 クリスマスイブの夜、若いお父さんとお母さんは川の字に寝ている幼い息子の枕元に、ミッキーマウスのぬいぐるみをとって置いた。いつもより早く飛び起きた息子が「昨日ね、サンタさんが来たよ」と息を切らして精一杯報告。「本当はね」などと否定する親はまづないだろう。数年後の小学校の運動会、息子は後継走で最下位。昼食時のシートで持機していたパパとママに報告。「1等賞の〇〇ちゃんに押されたから...」親の期待に応えたい子どもの気持ちは十分承知している。
 大人が経験を通して予測し、子どもの思いをくみ取ることができるなら「1等賞をとることより、最後まで一生懸命走ることが大事だよ」と嘘をつく前にうなだれる子どもに声をかけてあげたい。
 教師も親に匹敵する時間を子どもと共有している。
 子ども達に「騙される勇気と騙されない知恵」を身につけてほしいものである。



記載写真は1号~100号までをまとめ製本した冊子「100th Memorial Number」